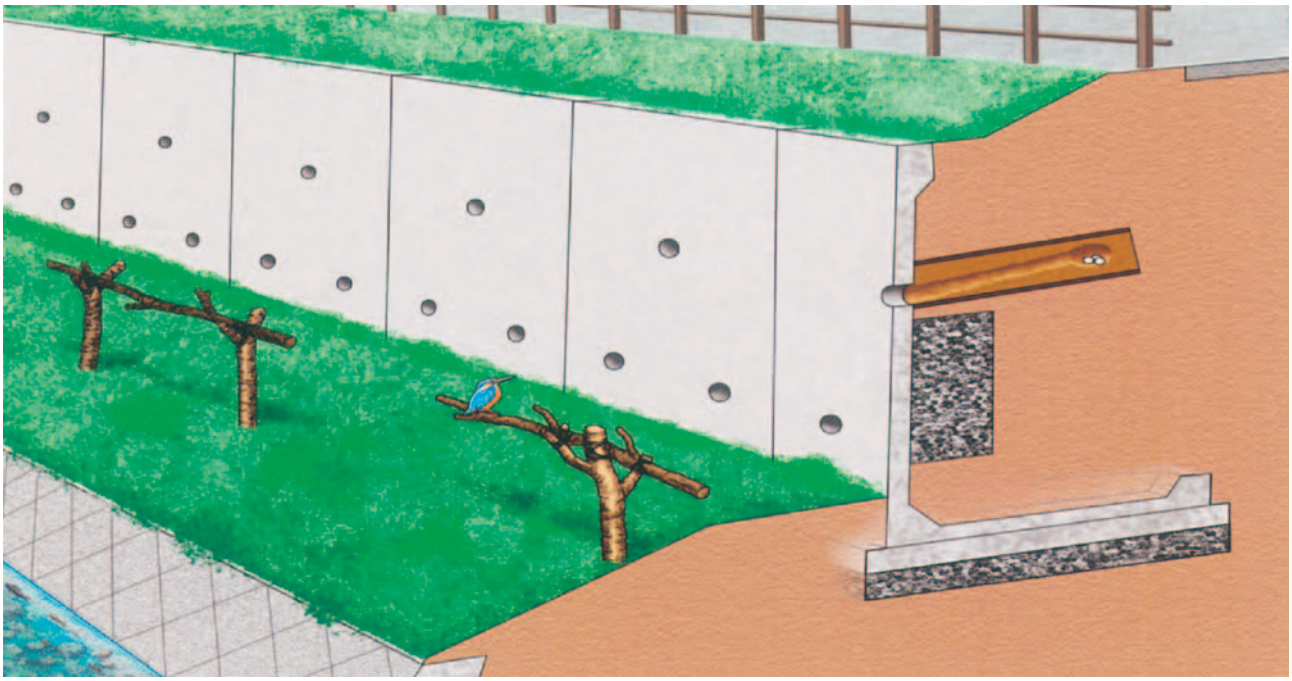
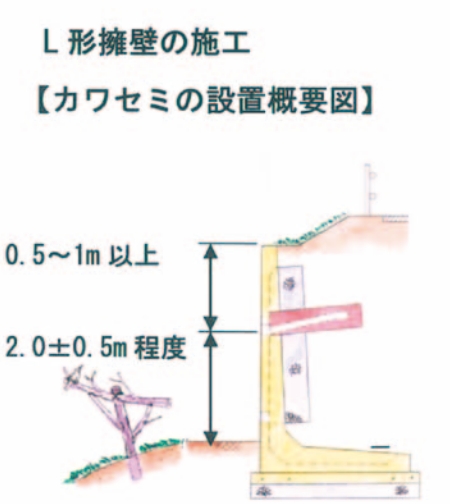
カワセミ・ヤマセミの営巣支援システム とりす工法

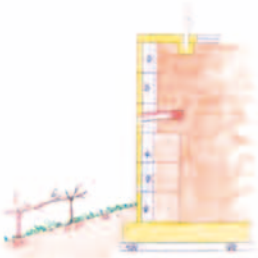
カワセミ【翡翠・川蝉】は日本全国の平地や山、川や池などの水辺近くに棲んでいます。その美しさから「清流の宝石」とも呼ばれ大変人気が有ります。カワセミは土の露出した垂直な土手や崖(がけ)に自分で穴を掘り巣作りします。しかし、全国的に巣作りの出来る場所は大変少なくなり数量も減っています。そこでこれから新設されるほぼ垂直な「プレキャストコンクリート擁壁」を介して、カワセミの安全な繁殖場所(営巣)を提供する「とりす(鳥巣)工法」を開発致しました。是非一度ご検討頂ければ幸いです。



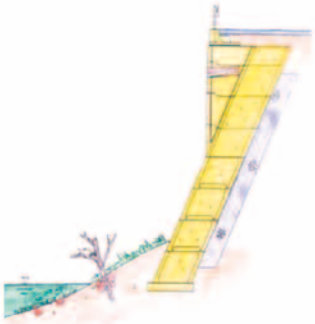


「日本野鳥の会」会員
「とりす工法研究会」会員

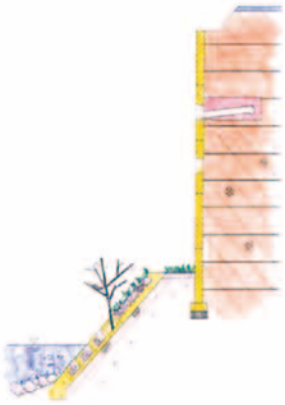
●「とりす工法」は下記の図の様に、L 形擁壁、逆 T 擁壁、ワイドウォール工法、補強土擁壁など、背面を埋め戻して前面がほぼ垂直なプレキャストコンクリート擁壁に採用する事が出来ます。



逆 T 擁壁



ワイドウォール工法



補強土擁壁

● 各種擁壁の施工写真です。これらの場所において採用が可能となります。
上の断面図とあわせてご覧ください。

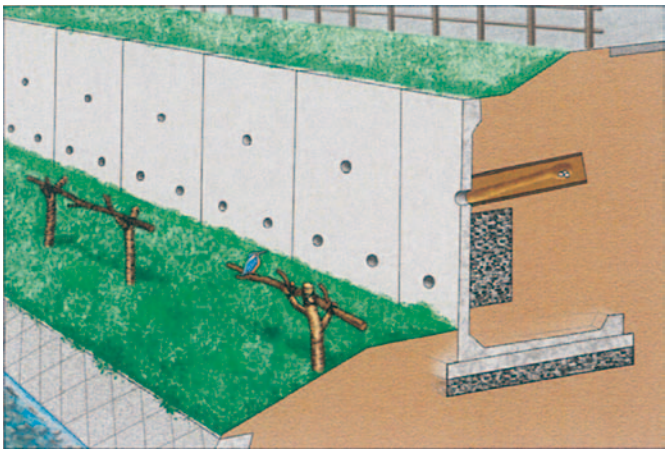
L 形擁壁

逆 T 擁壁

ワイドウォール工法

補強土擁壁

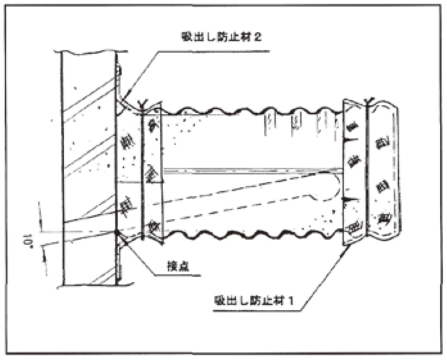
カワセミ



カワセミ(翡翠)は、ブッポウソウ目カワセミ科に分類される鳥。水辺に生息する小鳥で、鮮やかな水色の体色と長いくちばしが特徴である。ヒスイと呼ばれることもある。

営巣支援システム「とりす工法」とは、「カワセミ」が土の露出した垂直な土手や崖(がけ)に、ある時期繰り返して使用できる安全な繁殖場所を、これから新設する垂直なプレキャストコンクリート擁壁を介して提供するものです。

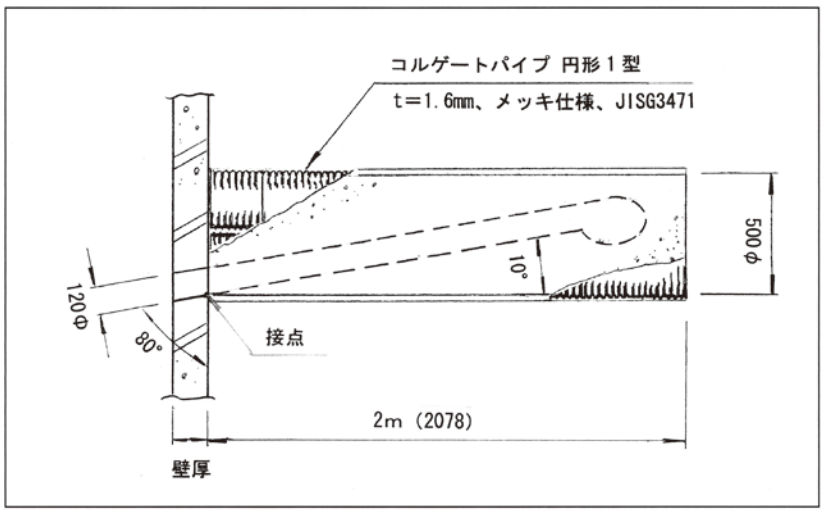
(1) コルゲートパイプの内径は400φmm×1mで営巣に最適な大きさです。コルゲートパイプ(円形1型、t=1.6mm、ドブメッキ仕様、JISG3471)
(2) 土柱ブロックの長さは約1.0m(実長1020mm)で、営巣に必要な奥行きに十分な長さです。
(3) 土柱ブロックを擁壁の背面に密着するようにとりつけます。(下図左)擁壁背面と土柱ブロックの接続部及び土柱ブロックの背部に吸出し防止材(下図右)を取り付けます。



ヤマセミ

ヤマセミ(山翡翠)は、ブッポウソウ目・カワセミ科に分類される鳥類の一種である。山地の渓流に生息するカワセミの仲間である。

繁殖形態：卵生。川や湖の岸辺の垂直な土手に嘴を使って巣穴を掘り、巣穴の中に4〜7の卵を産む。
出典：フリー百科事典『ウィキペディア(Wikipedia)』ほか

営巣支援システム「とりす工法」とは、「ヤマセミ」が土の露出した垂直な土手や崖(がけ)に、ある時期繰り返して使用できる安全な繁殖場所を、これから新設する垂直なプレキャストコンクリート擁壁を介して提供するものです。

(1) コルゲートパイプの内径は500φmm、L=2mでヤマセミの営巣に最適な大きさです。コルゲートパイプ(円形1型、t=1.6mm、ドブメッキ仕様、JISG3471)
(2) 土柱ブロックを擁壁の背面に密着するようにとりつけます。(下図左)擁壁背面と土柱ブロックの接続部及び土柱ブロックの背部に吸出し防止材(下図)を取り付けます。